

【県外研修会参加費等助成事業 研修報告】

「JPIC 読み聞かせサポーター講習会」に参加して

倉吉市立図書館 前田裕子

11月26日（土）岡山コンベンションセンターにて「JPIC 読み聞かせサポーター講習会」に参加させていただきました。

はじめに、絵本作家のいとうひろし氏の講演「絵本の育て方—絵本を読むこと、作ること—」があり、絵本や読書について、作り手の思いをお聞きしました。

絵本は、書かれていることは伝えたいことの一部だが、読み手の想像力を刺激し、書かれていない部分も感じ取ってもらえるように作っている。本は読む人のもので、読み方に正解はないが、伝えたいことを感じてもらえたら嬉しいと語られました。また、いま大人向けの絵本など多様なものが「絵本」と呼ばれているので、各々が自分にとって「絵本」とはどのような本かを考え、自分と絵本との関係をしっかり持つてほしいと話されました。

読書については、読み手が自分の常識から出ようとしないで、本を理解できないと判断したり、自分が本に対して求めるものを見つけられればそれで良しとしてしまうのはもったいない。身につけてきたものをはぎとって、素の状態で読書を楽しんではどうかと話され、本や読書に対する作り手の強い思いを感じました。読み聞かせの選書についても、うけねらいで選ぶのではなく、自分が面白い、伝えたいと思い、自信を持ってこの本を子どもたちと共有したいという気持ちが大切だと学びました。

午後は、JPIC 読書アドバイザーのお二人にご講義いただきました。おはなし会のプログラムは、コース料理のように、導入の本、聞きごたえのある本や季節の本、デザートのように終わった後幸せな気持ちになる本を用意すること、また、昔話には人間の生きる知恵が含まれているので、迷った時には昔話を選ぶようにと教わりました。赤ちゃん向けには同じ絵本を2度読むと話され、1度目は書かれた文以外の言葉も話すことがあるが、2度目は作者の書いたとおりに読み、作者の文学を誠実に伝えるようにしているとのことでした。お二人とも、ただ本を読むだけでなく、方言で読まれたり、カバーをかけて何だろうと思わせたりと、より聞き手の興味を惹きつける工夫をしておられたことが印象的でした。また、どの場所でも対象を大事にした選書や、本を誠実に届けることを大切にされていると感じ、選書や読み方について、まだまだ工夫できることに気づかされました。

一日を通して、考え抜いて作られた本1冊の重みと、それを人に届けようとするときの姿勢を教わり、大変刺激を受けました。また、読み聞かせを38年続けておられる講師の、体験を交えたお話と周りへの感謝の言葉にも勇気をもらいました。今回学んだことをいかして、本が伝わる読み聞かせができるよう励みたいと思います。参加の機会をいただきありがとうございました。